

2. 土井が浜弥生遺跡 & 人類学ミュージアム

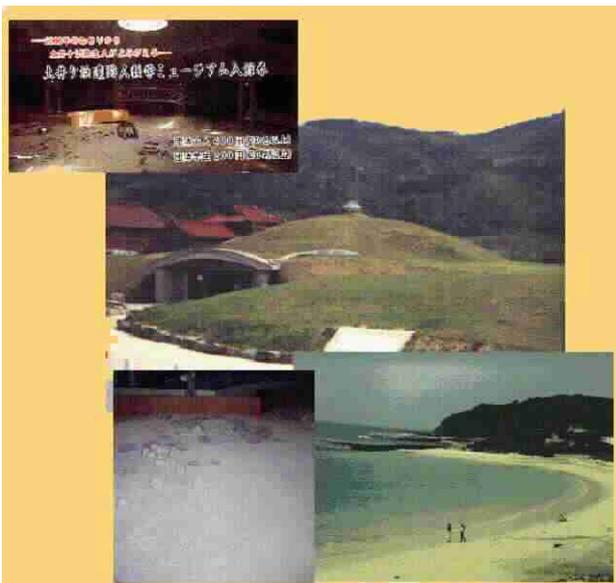
【 土井が浜 弥生パーク 】 山口県豊浦郡と豊北町

dhm.htm by M. Nakanishi 1999.5.3.



土井ヶ浜遺跡は、遠い2000年の昔 日本の歴史を考える国立の史跡公園です。

この日本海を臨む浜辺の丘の上には、300体を超える弥生人骨が整然と並んで埋葬・出土した非常に貴重な集団墓地遺跡です。



この多くの弥生人骨は、日本人の起源を考えるうえで、また、埋葬の在り方は弥生人の生活を知るうえで大変重要な資料を提供しています。

この土井が浜人類学ミュージアムでは 中国の研究者達と共同研究が行われる一方毎年人類学シンポジウムが開催され、この渡来系弥生人のルーツ調査が行われています。

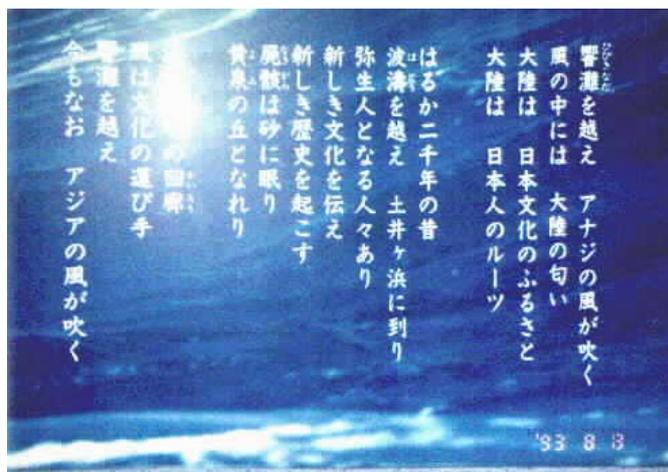
その結果、ここから出土した弥生人の人骨は、中国内陸部の黄河・長江に挟まれた地帯から出土する人骨とよく似ている事が、発見され、弥生人のルーツの一つがこの地方にあることが判りつつあります。

縄文・弥生の時代を超えて、大陸から多くの人々が渡来し、数々の文化を伝え、この日本を形作ってきました。2000年前の昔、中国春秋戦国の動乱の中、大陸から渡来し、日本人として生涯をとじた渡来人達が、望郷の念を抱きつつ海をへだててはるか遠い故郷の方向をじっと眺めつつ、この丘で今も眠りについる。

北九州・山口地方の渡来系弥生人のルーツが土井が浜弥生遺跡です。



土井が浜渡来系 弥生人と縄文人の顔骨格の相違



【土井が浜 人類学博物館ドームの内部】

発掘された状態のままで ドームがかけられ 内部が見学できます



1999. 5. 3. by M. Nakanishi

第6回 土井ヶ浜シンポジウム 講演資料より
『中国青海省の青銅器時代人骨と弥生人骨（予報）』

松下孝幸 ・ 韓康信

1998. 6. 30. 土井ヶ浜人類学博物館にて

dhm2.htm 1999. 54. 24. by M. Nakanishi 資料収録

私たち学際的共同研究チームは、土井ヶ浜弥生人など、縄文人的特徴をもたない弥生すなわち渡来系と呼ばれている弥生人のルーツを探るために、中国の研究者と共同研究をおこなってきた。

94年から96年までの山東省との共同研究で、山東省臨?から出土した周代末と漢代人骨が、北部九州や山口の弥生人骨によく似ていることが、明らかになり、北部九州・山口タイプの弥生人のおおもとは中国大陸にあると考えても差し支えない状況になりました。

しかし、私たちはこの事実から北部九州・山口タイプの人々は山東省から来た、といっているわけではない。どこから来たかはまだわからないが、おおもとは大陵にあるといってもいいだろうと思っている。

これから先は「直接どこから、どのようなルートで、どこへ入ってきたか」という課題と「本当のルーツはどこか」という2つの課題で調査研究を進めていく計画である。

本当のルーツはどこか、というのは土井ヶ浜弥生人や吉野ヶ里弥生人など日本では渡来系弥生人とよばれている人々の形質はどこまでさかのぼれるのか、中国大陸ではいつごろからこのような特徴をもった人々がどこに現れたのか、という意味である。

山東省臨?では周代末からは確実にこのような特徴を示していましたので、おそらく周代までは確実にさかのぼれると私たちは考えている。

日本列島への渡来を考える場合は、日本人はよく北からとか南からとかいうが、中国でヒトの移動を考える場合は、西から東への流れを無視するわけにはいかない。

私は、黄河と揚子江の二大河川に沿ってヒトと文化が西から東へ移動したのではないかと考え、まず黄河と揚子江の源流がある青海省の古人骨の特徴を調べてみることにした。

幸いなことに青海省からは保存状態のよい青銅器時代の人骨が多数発掘され、韓先生のご努力でそれらが保管・管理・整理されていた。

現在、私たちはこの人骨の研究をおこなっているが、人骨が多量なためにまだ彫塑途中なので、今年は研究の一部をご紹介します。

第6回 土井ヶ浜シンポジウムにて

1. 弥生人の地域差

1. 北部九州・山口タイプ	3. 南九州・南西諸島タイプ
1. 顔が長い(顔の高さが高い) 2. 鼻の付け根が扁平 3. 高身長(男性 162~164cm 女性 150cm 程度)	1. 著しい「低・広顔」(西北九州弥生人の特徴がさらに顕著) 2. 強い「短頭性」(頭を上からみた形が円に近い) 3. 著しい低身長 [男性 153~155cm 女性 141~145cm 程度] 4. 風習的抜歯を行なっている。
2. 西北九州タイプ	
1. 顔が短い 2. 眉上弓の隆起が強く、鼻骨が隆起し鼻根部が陥凹しており、ホリが深い容貌 3. 低身長(男性 158cm 程度 女性 148cm 程度) 4. 風習的抜歯を行っている。	

弥生人と縄文人の頭骨の特徴と差

〈山口県土井が浜人類学ミュージアム〉



2. 地域差が生じた理由

西北九州タイプ ・ 縄文人の特徴と同じ ・ 彼らは縄文人の子孫？	北部九州・山口タイプ ・ 縄文人の特徴は見られない ・ 彼は大陸からの渡来人か？
--	--

3. 中国大陸の2, 〇〇〇年前の古人骨

山東省の臨?の漢代と周代の人骨は北部九州・山口タイプに酷似。

4. 青海省青銅器時代人骨 資料 {頭蓋}

各人骨の所属時代は、? 約文化および辛店文化期の青銅器時代で、日本の縄文時代後期に相当する。

上孫家	アハトラ山	李家山	合計
232	37	24	293

5. 李家山頭蓋の特徴

- ・ 頭型は中頭型。
- ・ 顔の特徴は高さが高く、幅が狭い（高顔・狭顔）。
- ・ 鼻根部は属平。

土井ヶ浜弥生人や吉野ヶ里弥生人などの渡来系弥生人に酷似。

土井ヶ浜弥生人の形質的特徴の原形は青銅器時代までさかのぼる可能性が強くなってきた。

土井ヶ浜の海岸丘で、遠く大陸へ続く日本海を眺めつつ眠る土井ヶ浜人。

弥生人しいては日本人のルーツの集団の一つが、黄河・揚子江に挟まれた流域からやって来たらしい。

中国・朝鮮半島の多くの国の興亡の中 朝鮮海峡を渡り、日本にやって来た。

この弥生中期の土井ヶ浜人が鉄を持ってきたかどうか?はまだ判っていない。

しかし この道は日本へ数々の文化を伝えた本街道。

日本へ鉄を伝えた『 Iron Loard 』も間違いなくこの道であつたに違いない。